

# 妄想女子



私には妄想癖があります。  
特に、一般的に禁じられているものや危ないコト…。

皆には優等生で通っている私。  
頭の中ぐらいいは自由でいてもいいよね。



今日は友達の彼氏を誘惑しました。  
ゴムを見せて胸をはだけさせただけで彼は  
その気になってしまいました。

ドキ

ねえ：いいの？  
あの子に悪いと  
思わないの？

ドキ

さ、誘ってきたのは  
そっちだろ。

ムチ

ムチ



ねえ、あの子にどういってやってもうった？  
あの子の小さいから無理よね。  
どう？私の胸、気持ちいい？

ハッ

あ、ああ。すげえ  
気持ちいいよ。

ハッ

アッ

この日、私は友達の彼氏を奪い取りました。  
奪い取ってはいないかな。今も友達と彼は  
付き合っています。友達の知らないところで  
彼と抱き合っています。

ムニョ

ムニョ

放課後、学校に残って  
勉強していたら教室に先生が  
やってきていきなり抱かれました。

あ：先生……。だめです……。  
奥さんがいるのにこんなこと……

すまん。もう  
我慢できなくなってしまったんだ！

そういうと、先生は私の体の  
あらゆるところをおさほり  
続けました。  
気がついたら辺りは暗くなって  
しまい、先生の車で送って  
もらいました。しかし、着いたのは  
ホテル。またそこで先生に  
抱かれてしまいました……

クス：心配しないでください先生。  
誰にもいいませんから…。その代わり…

毎日気持ちよくしてください。

あ：ああ  
もちろんいいぞ！

ああ：気持ちいいぞ。  
お前の担任になった時から  
こうなることを待ってたんだ。

んっ：先生：  
奥さんがいるのにいいんですか？

ハ  
いいさ。もうお前のことを  
抱けたんだ。後悔はない。

現実の先生はすごい愛妻家。  
私のつけ入る隙なんか  
全くないほど  
人間としても教師としても  
素晴らしい人です。

ん♡

(ふ)

あ

せ、先生。ゴム付けて…  
妊娠しちゃう…

だめだ。お前に俺の子を  
生んでもらいたいんだ！

で、でも先生。  
奥さんが…

妻とは別れる。  
だから頼む！

あ…先生…

先生は私の承諾なしに何度も  
中に出してきました。  
終わった頃、私のアソコからは  
どぶどぶと白い液体が大量に  
溢れ出てきていました。

又  
70

又  
70

弟に勉強を教えてくれと頼まりました。

何の勉強かと聞いたら  
女性の体について教えて欲しいと  
頼まりました。可愛い弟の頼みなら  
断れません。私は服を脱いでまずは  
女の体を見せてあげました。

ほら：。次は何を  
教えてほしいの？

ね、姉ちゃんの体：触りたい：。

ん…いいよ…。

カ  
ル  
ン

ム  
キ

タ  
ッ

ね、姉ちゃんとしたい…。

うん…いいよ…。

この日、私と弟は抱き合いました。  
弟は必死に腰を動かしていました。  
私もまた、弟の上にまたがり、腰を上下に  
動かしました。弟は何度も果ててしまい、  
すごく気持ちよさそうでした。



お風呂に入っていたらいきなりお父さんが  
入ってきて私に襲い掛かってきました。

お父さんー♡

お母さんがしてくれないせいで  
溜まっていたらしく、我慢できなくなって  
私で…。何回も出しました。

ん…だめ。お父さん…。  
お母さんが知ったら  
どうするの…？

すまん。お前の中が気持ちよすぎて  
何も考えられない。

お、お父さん…。  
だめ…だめだよ…。

まだお母さんにはバシていないとは思いますが、こんなことが知られたらきっと二人は離婚してしまいます。それでも、私は父に求められるたびに抱かれ続けました。

フッ

フッ

お父さん：。  
もう終わり？

ああ。もう流石に疲れたよ。

私、まだまだ足りない：。  
終わいならこの後彼氏に  
してもらおうかな：。

か、彼氏だと！？

本当は恋人なんていません。  
ですがお父さんは興奮して私のことを  
押し倒して抱いてきました。  
その間、私の恋人のことを何度も  
尋ねながら腰を動かしていました。

又ハッ

この度は当作品をご購入くださり、ありがとうございます。

今回のテーマは妄想女子です。ただのいやらしい妄想ではなく、モラル的に禁じられていることばかりを妄想しています。

あくまで妄想なので、全てフィクションです。本来の彼女が優等生という点のみは事実ですが、まだ描き足りないのもう一度モノクロで色々挑戦してみたいと思っています。

モノクロ作品を仕上げてみましたが、カラーとは違った魅力を感じます。

カラーよりもモノクロの方がいい、という作品も多々あります。作画時間も比較的短く済むことは私としては非常に魅力的な要素です。

決して手を抜いている意図はないのですが、作画時間が短い分、質は劣るかもしれません。量を増やして自分も購入してくださる方にも満足して頂けるものができれば、と思います。

この作品の続編を描く際はもう少し枚数を増やしたものを完成させたいところです。

S

※当サークルの全作品の  
無断転載等の（購入されていない方が閲覧できる）行為は  
ご遠慮願います。ご協力の程、よろしくお願い致します。